

# 『理学部・理学研究科ファクトブックⅡ』

## (沿革・構成編)

---

1. 沿革・設置目的	・・・P 1	9. ミッション (教育研究上の目的・設置の趣旨目的)	・・・P 7
2. 研究科長・学部長	・・・P 4	10. ディプロマ・ポリシー	・・・P 9
3. 副研究科長	・・・P 4	11. アドミッション・ポリシー	・・・P 12
4. 構成	・・・P 4	12. カリキュラム・ポリシー	・・・P 13
5. 取得可能な学位	・・・P 6	13. 教育上の取り組み	・・・P 13
6. 専任教員数	・・・P 7	14. 学生に関すること	・・・P 14
7. 予算規模	・・・P 7	15. 就職	・・・P 15
8. 校地・校舎等の状況	・・・P 7	16. 教育研究の活動状況等	・・・P 15

# 1. 沿革・設置目的

## ◆昭和 24 (1949) 年

文理学部理科として発足

### 《設置目的》

文理学部は神戸経済大学予科、姫路高等学校を主な母体とし、神戸工業専門学校、兵庫師範学校および兵庫青年師範学校も前身とする。文理学部理科は統計数学科、物理学科、化学科、生物学科の4学科で編成され、数学及び理科分野の高等教育と研究及び全学教養課程における数学、理科分野の一般教育を行うことを目的とする。

## ◆昭和 29 (1954) 年

理学部設置

### 《設置目的》

文理学部の廃止により、理学部及び文学部が設置される。理学部の設置に伴い、統計数学科を数学科に改称。

## ◆昭和 32 (1957) 年

理学専攻科設置

### 《設置目的》

理学専攻科（数学専攻、物理学専攻、化学専攻、生物学専攻）の設置。より高度な専門教育と研究を実施する。

## ◆昭和 38 (1963) 年

理学部附属臨海実験所設置

### 《設置目的》

理学部附属臨海実験所を淡路島岩屋に設置。主として藻類研究および生物学科フィールド教育の拠点として機能する。

## ◆昭和 39 (1964) 年

放射性同位元素共同実験室設置

### 《設置目的》

理学部関連学内施設として、放射性同位元素共同実験室（平成8（1996）年にアイソトープ総合センターに拡充改組）が設置される。

## ◆昭和 40 (1965) 年

大学院理学研究科（修士課程）設置

### 《設置目的》

理学専攻科を廃止し、大学院理学研究科（修士課程）を設置。

## ◆昭和 40 (1965) 年

地球科学科設置

### 《設置目的》

地球科学科を設置。これによってすべての理科分野を擁する学部となる。

◆昭和 51 (1976) 年

低温センター設置

《設置目的》

理学部関連学内センターとして低温センター（平成 16（2004）年に研究基盤センター・極低温部門に改組）が設置される。

◆昭和 52 (1977) 年

理学研究科（修士課程）地球科学専攻設置

《設置目的》

理学研究科（修士課程）に地球科学専攻を設置。昭和 48（1973）年の理学部地球科学科設置に伴うもので、これによって 5 専攻を有する研究科に改組。

◆昭和 55 (1980) 年

理学研究科博士課程物質科学専攻設置

《設置目的》

◆昭和 56 (1981) 年

大学院自然科学研究科博士課程設置

《設置目的》

大学院自然科学研究科博士課程が設置され、理学研究科博士課程物質科学専攻が移行。理学系、工学系、農学系の学際融合教育研究を推進する。

◆昭和 63 (1988) 年

遺伝子実験施設設置

《設置目的》

理学部関連学内施設として、遺伝子実験施設（平成 13（2001）年に遺伝子実験センターに拡充改組）が設置される。

◆平成 2 (1990) 年

バイオシグナル研究センター 遺伝子実験施設設置

《設置目的》

理学部関連学内センターとして、バイオシグナル研究センターが設置される。

◆平成 5 (1993) 年

地球科学科を地球惑星科学科に改称

《設置目的》

地球科学科を地球惑星科学科に改称。地球科学分野に加えて惑星科学分野の教育研究も行う。

◆平成 6 (1994) 年

理学研究科（修士課程）を自然科学研究科博士課程前期課程に移行

《設置目的》

自然科学研究科の改組に伴い、理学研究科（修士課程）が自然科学研究科博士課程前期課程に移行。

◆平成 7 (1995) 年

内海域機能教育研究センター設置

《設置目的》

附属臨海実験所を廃止し、生物系と地球科学系の 2 分野から編成される内海域

機能教育研究センター（平成 15（2003）年に海事科学系分野を有する内海域環境教育研究センターに改組）を設置。生物学分野に加えて海洋地質学分野の教育研究も行う。

◆平成 8（1996）年

アイソトープ総合センター及び都市安全研究センター設置

《設置目的》

理学部関連学内センターとして、アイソトープ総合センター（平成 16 年に研究基盤センター・アイソトープ部門に改組）および都市安全研究センター（地球惑星科学科教員定員を移行し、地震学部門を担当）が設置される。

◆平成 12（2000）年

バイオシグナル研究センターの拡充改組

《設置目的》

生物学科教員定員をバイオシグナル研究センターに移行し、さらなる研究の推進を図る。

◆平成 13（2001）年

分子フォトサイエンス研究センター設置

《設置目的》

理学部関連学内センターとして、分子フォトサイエンス研究センターが設置される。物理学科および化学科の教員定員を移行し、最先端の物性研究を行う。

◆平成 1319（2007）年

大学院理学研究科発足

《設置目的》

自然科学研究科および関連学部の改組により、大学院理学研究科が発足。学部と同一分野の 5 専攻（数学、物理学、化学、生物学、地球惑星科学）を有し、前期課程と後期課程が連結した一般研究科になる。また、改組により新たに設置された自然科学系先端融合科学研究環に、関連センターである内海域環境教育研究センター、分子フォトサイエンス研究センター、遺伝子実験センター、バイオシグナル研究センター、都市安全研究センターが移行する。

◆平成 27(2015)年

地球惑星科学科を惑星学に改称

《設置目的》

地球惑星科学科を惑星学に改称。地球科学及び惑星科学分野を融合した教育研究を行う。

◆平成 27(2015)年

海洋底探査センターの設置

《設置目的》

理学研究科を中心に海事科学研究科、工学研究科をはじめとする学内の研究科および学外の機関と連携し、海洋底探査に関わる広い範囲の科学技術を機能的に融合した国内唯一の教育研究拠点を構築する。

**2. 研究科長・学部長** (H27.5.1) 現在◆齋藤政彦 (58歳 専門:代数学)

任期: 2期目 (H27(2015).4.1 ~ H29(2017).3.31)

**3. 副研究科長** (H27.5.1) 現在◆鏑木基成 (60歳 専門:生命分子化学)

任期: 1期目 (H25(2013).4.1 ~ H26(2014).3.31)

任期: 2期目 (H26(2014)4.1 ~ H28(2016).3.31)

◆荒川政彦 (50歳 専門:惑星科学)

任期: 1期目 (H27(2015).4.1 ~ H29(2017).3.31)

**4. 構成** (H27.5.1) 現在◆理学部

学科名	入学定員	備考
数学科	25	
物理学科	35	
化学科	25	
生物学科	20	
惑星学科	35	
合計	140	(3年次編入 25)

◆理学研究科

専攻名	入学定員		備考
	(M)	(D)	
数学専攻	22	4	
物理学専攻	24	5	
化学専攻	28	6	
生物学専攻	24	7	
惑星学専攻	24	7	
合計	122	29	

◆部局内センター○ 惑星科学研究センター

平成19(2007)年4月1日設置

- ・目的 国内外の惑星科学研究者の研究教育活動を広く支援し、惑星科学に関する知見の集積と人的交流の場を形成し、もって惑星科学に関する学術研究水準の向上と世界に活躍する人材の育成を目指し、G-COEプログラムの掲げる開かれた国際共同利用研究センターとして機能すること。
- ・業務
  - ・惑星科学にかかる研究に関すること。
  - ・惑星科学にかかる人材育成に関すること。
  - ・国内外の惑星科学研究者による研究教育活動の支援に関すること。
  - ・惑星科学と社会とのかかわりに関すること。
  - ・その他目的を達成するために必要なこと。

#### ◆関係する学内共同利用施設等

##### ○ 自然科学系先端融合研究環内海環境教育研究センター

平成 15 (2003) 年 10 月 1 日設置

(内海環境教育研究センター：平成 7 (1995) 年 4 月 1 日設置，平成 15 (2003) 年 9 月 30 日廃止)

- ・目的 内海域における自然環境及び環境保全に関する教育，研究並びに諸機関との内海環境に関する共同研究を行うこと。
- ・業務
  - ・自然環境及び環境保全についての研究，調査及び研修に関すること。
  - ・自然環境及び環境保全についての共同研究及び受託研究に関すること。
  - ・学生に対する教育，実習及び研究指導に関すること。
  - ・諸機関との学術交流及び情報交換に関すること。
  - ・その他目的を達成するために必要なこと。

##### ○ 自然科学系先端融合研究環分子フォトサイエンス研究センター

平成 13 (2001) 年 4 月 1 日設置

- ・目的 光と分子の相互作用についての基礎的研究を行い，もって光科学の教育研究の進展に資すること。

##### ○ 自然科学系先端融合研究環遺伝子実験センター

平成 13 (2001) 年 4 月 1 日設置

(遺伝子実験施設：昭和 63 (1988) 年 4 月 1 日設置，平成 13 (2001) 年 3 月 31 日廃止)

- ・目的 組換えDNA実験技術の普及及び発展を図るとともに，遺伝子の情報解析・機能制御・機能評価・利用に関する研究を行い，もって生命科学に関する教育研究の進展に資すること。
- ・業務
  - ・専任教員を中心とした教育・研究活動

- ・他部局の教員・学生による施設，機器を利用した教育・研究活動
- ・技術講習会・学術講演会の開催による教育・啓発活動
- ・その他（遺伝子組換え実験についての情報提供，DNAおよびタンパク質一次構造の依頼分析等）

#### ○ 自然科学系先端融合研究環バイオシグナル研究センター

平成2（1990）年6月8日設置

- ・目的 細胞の情報伝達に関する研究を行い，もって生命科学の教育研究の進展に資すること。
- ・業務 細胞が生理活性物質のシグナルを受けた後，それらのシグナルがどのようにして細胞内部へ伝達され，細胞の機能を制御しているかという仕組みの解明を行う。情報伝達経路，情報クロストーク，細胞機能制御，細胞膜情報（客員分野），情報構造，生体制御統合というグループにおいて研究を推進するとともに国内外の第一線の研究者及び国際的企業との共同研究を行う。

#### ○ 自然科学系先端融合研究環都市安全研究センター

平成8（1996）年5月11日設置

- ・目的 安全かつ快適な都市の理念を構築し，それを実現するための手法，システムについて総合的に教育及び研究を行い，もって活力ある都市の創出に寄与すること。

#### ○ 海洋底探査センター

平成27（2015）年10月1日設置

- ・目的 神戸大学における船舶や各種先端装置を利用した海洋底の構造探査技術及び鉱床評価に関する教育、研究並びに諸機関との海洋底探査や資源開発に関連する共同研究を行い、もって海洋底に関連する科学技術分野の教育研究の進展に資することを目的とする。

## 5. 取得可能な学位

### ◆理学部

学士（理学）

### ◆理学研究科

博士課程前期課程：修士（理学）

博士課程後期課程：博士（理学）または博士（学術）

## 6. 専任教員数 (H27.5.1) 現在

→理学部・理学研究科ファクトブックⅢ  
(データ・資料編)のとおり

## 7. 予算規模

平成 26(2014)年度

運営費交付金等 1,503 百万円

外部資金 626 百万円

総計 2,128 百万円

※1 各部局における予算執行額を予算規模としている(ただし、設備整備費補助金・施設整備費補助金及び目的積立金は除く)。

※2 百万円未満を四捨五入して計上。

## 8. 校地・校舎等の状況 (H27.5.1) 現在

### ◆建物の延べ床面積

13,862 m<sup>2</sup>

### ◆教室等

・講義室 12室、 演習室 13室、 実験実習室 68室

情報処理学習施設 0室(補助職員 0人)、語学学習施設 0室(補助職員 0人)

### ◆専任教員研究室

113室

## 9. ミッション(教育研究上の目的、設置の趣旨目的)

### ◆理学部

自然科学の基礎である理学諸分野を探求することによって自然の理解を深め、社会の進歩に貢献することを教育研究上の目的としています。

### ○数学科

広い知識を授けるとともに、解析数理、構造数理、応用数理の教育研究を行い、教養並びに数学及びその応用に関する専門的な知識を身に付けた人材を養成することを目的としています。

### ○物理学科

広い知識を授けるとともに、物質の構造及び機能を根本原理から理解するための教育研究を行い、教養及び物理学に関する専門的な知識を身に付けた人材を養成することを目的としています。



### ○化学科

広い知識を授けるとともに、新しい概念及び学際領域の創出を意図した化学の教育研究を行い、教養及び幅広い化学の専門的な知識を身に付け、未開拓の分野への意欲的取り組み並びに問題認識及び解決能力を身に付けた創造力のある人材を養成することを目的としています。

### ○生物学科

広い知識を授けるとともに、分子・細胞レベルから種及び生態系レベルまでの基礎生物学的教育研究を行い、教養及び生物学に関する専門的な知識並びに科学的な考え方を身に付けた人材を養成することを目的としています。

### ○惑星学科

広い知識を授けるとともに、地球及び太陽系・宇宙についての教育研究を行い、教養及び惑星学に関する専門的な知識並びに自然の中から自ら問題を発見し解決する能力を身に付けた人材を養成することを目的としています。

## ◆理学研究科

自然科学の基礎である理学諸分野を探究することによって自然認識の深化を図り、もって社会的基盤の形成に貢献するための教育研究を行っています。

### ○数学専攻

自然界や社会現象における数理を探究し、広範な数理現象の解明を目指した教育研究を行うとともに、前期課程においては、数学を深く探究するための基礎となる能力や、これに加えて関連する専門的職業を担うための能力を持つ人材を養成することを目的とし、後期課程においては、数学の各専門分野で自立して研究を行う能力とその基礎となる豊かな学識や、これに加えて高度の専門性を要する職業を担うための能力を持つ優れた人材を養成することを目的としています。

### ○物理学専攻

宇宙から分子、原子や素粒子に至る広い範囲にわたって、物質の構造と機能を根本原理から理解することを目指した教育研究を行うとともに、前期課程においては、物理学を深く探究するための基礎となる能力や、これに加えて関連する専門的職業を担うための能力を持つ人材を養成することを目的とし、後期課程においては、物理学の各専門分野で自立して研究を行う能力とその基礎となる豊かな学識や、これに加えて高度の専門性を要する職業を担うための能力を持つ優れた人材を養成することを目的としています。

### ○化学専攻

新しい物質の創製や新しい化学現象と化学原理の探求を目指した教育研究を行うとともに、前期課程においては、化学を深く探究するための基礎となる能力や、これに加えて関連する専門的職業を担うための能力を持つ人材を養成することを目的とし、後期課程においては、化学の各専門分野で自立して研究を行う能力とその基礎となる豊かな学識や、これに加えて高度の専門性を要する職業を担うための能力を持つ優れた人材を養成することを目的としています。

### ○生物学専攻

すべての生物に共通する生命の仕組みと生物界の多様性の成り立ちの解明を目指した教育研究を行うとともに、前期課程においては、生物学を深く探究するための基礎となる能力や、これに加えて関連する専門的職業を担うための能力を持つ人材を養成することを目的とし、後期課程においては、生物学の各専門分野で自立して研究を行う能力とその基礎となる豊かな学識や、これに加えて高度の専門性を要する職業を担うための能力を持つ優れた人材を養成することを目的としています。

### ○惑星学専攻

地球・太陽系・宇宙に係る構造・起源・進化と、そこで生起する諸現象の解明を目指した教育研究を行うとともに、前期課程においては、惑星学を深く探究するための基礎となる能力や、これに加えて関連する専門的職業を担うための能力を持つ人材を養成することを目的とし、後期課程においては、惑星学の各専門分野で自立して研究を行う能力とその基礎となる豊かな学識や、これに加えて高度の専門性を要する職業を担うための能力を持つ優れた人材を養成することを目的としています。

## 10. ディプロマ・ポリシー

### ◆理学部

神戸大学理学部は、自然科学の基礎である理学諸分野を探求することによって自然の理解を深め、社会の進歩に貢献することを教育研究上の目的としています。

また、理学部の数学、物理学、化学、生物学、惑星学の5つの学科においては、広い知識を習得し、教養及びそれぞれの分野に関する専門的な知識などを身に付けることを基本に、人材の養成や教育研究の目的をそれぞれ以下のように定めています。

#### 数学科

解析数理、構造数理、応用数理の教育研究を行い、教養及び数学とその応用に関する専門的な知識を身に付けた人材を養成する。

#### 物理学科

物質の構造及び機能を根本原理から理解するための教育研究を行い、教養及び物理学に関する専門的な知識を身に付けた人材を養成する。

#### 化学科

教養及び化学の幅広い専門的な知識を身に付け、未開拓の分野へ取り組む意欲並びに問題認識及び解決能力を身に付けた創造力ある人材を養成する。

#### 生物学科

広い知識を授けるとともに、分子・細胞レベルから種及び生態系レベルまでの基礎生物学的教育研究を行い、教養及び生物学に関する専門的な知識並びに科学的な考え方を身に付けた人材を養成する。

## 惑星学科

多様な惑星現象に対する広範囲な視野、多様な手法を用いた解析能力と論理的思考力、そして豊かな感性とグローバルな視点を備えて、社会の発展を牽引する人材を養成する。

これらの人材養成と教育研究上の目的並びに全学で定めた学位授与に関する方針を踏まえて、学生の卒業及び学位取得の要件を、下記のとおり定めています。

○本学部に 4 年以上在学し、各学科が履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。ただし、在学期間に関しては、各学科が定めた早期卒業の認定基準を満たした場合は、3 年以上在学すれば足りるものとする。

○上記の課程を修めて卒業した者に対しては、学士の学位を授与する。

なお、各学科における教育研究上の目的や適用される理学部規則は、入学年度に発行された学生便覧に掲載されています。

◆理学研究科○博士課程前期課程

神戸大学大学院理学研究科は、自然科学の基礎である理学諸分野を探究することによって自然認識の深化を図り、もって社会の知的基盤の形成に貢献することを教育研究上の目的としている。

また、理学研究科に置かれた、数学、物理学、化学、生物学、惑星学の 5 つの専攻においては、それぞれの専門分野において幅広い知識をもつとともに、問題解決能力と学際的視点をもった創造性豊かな人材を養成するために、それぞれ以下のように博士課程前期課程の教育研究上の目的を定めている。

## 数学専攻

自然界及び社会現象における数理を探求し、広範な数理現象の解明を目指した教育研究を行うとともに、数学を深く探究するための基礎となる能力又はこれに加えて関連する専門的職業を担うための能力を持つ人材を養成する。

## 物理学専攻

宇宙から分子、原子および素粒子に至る広い範囲にわたって、物質の構造及び機能を根本原理から理解することを目指した教育研究を行い、物理学を深く研究するための基礎となる能力又はこれに加えて関連する専門的職業を担うための能力を持つ人材を養成する。

## 化学専攻

新しい概念と学際領域の創出を目的として新規物質の創製並びに新しい化学現象及び化学原理の探求に強い意欲を持ち、かつ、化学を深く探求するための基礎となる能力及び関連する専門的職業を担うための能力を持つ人材を養成する。

## 生物学専攻

すべての生物に共通する生命の仕組み及び生物界の多様性の成り立ちの解明を目指した教育研究を行うとともに、生物学を深く探究するための基礎となる能力又はこれに加えて関連する専門的職業を

担うための能力を持つ人材を養成する。

#### 惑星学専攻

多様な惑星現象に対する広範囲な視野、多様な手法を用いた解析能力と論理的思考力、豊かな感性とグローバルな視点を備え、惑星現象に関する専門的知識に基づき、社会の発展を牽引する人材を養成する。

これらの教育研究上の目的及び全学で定めた学位授与に関する方針を踏まえて、学生の修了及び学位取得の要件を、下記のとおり定めている。

○博士課程前期課程に2年以上在学し、各専攻が定める授業科目のうちから所定の単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、研究経過発表会での発表を経て、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、前期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

○博士課程前期課程を修了した者には、修士の学位を授与する。

なお、各専攻における教育研究上の目的や適用される理学研究科規則は、入学年度に発行された学生便覧に掲載されている。

#### ○博士課程後期課程

神戸大学大学院理学研究科は、自然科学の基礎である理学諸分野を探究することによって自然認識の深化を図り、もって社会の知的基盤の形成に貢献することを教育研究上の目的としている。

また、理学研究科に置かれた、数学、物理学、化学、生物学、惑星学の5つの専攻においては、それぞれの専門分野において高度な専門性と幅広い視野をもち、創造性と独創性を兼ね備えた人材を養成するために、それぞれ以下のように博士課程後期課程の教育研究上の目的を定めている。

#### 数学専攻

自然界及び社会現象における数理を探求し、広範な数理現象の解明を目指した教育研究を行うとともに、数学の各専門分野で自立して研究を行う能力及びその基礎となる豊かな学識又はこれに加えて高度の専門性を要する職業を担うための能力を持つ優れた人材を養成する。

#### 物理学専攻

宇宙から分子、原子および素粒子に至る広い範囲にわたって、物質の構造及び機能を根本原理から理解することを目指した教育研究を行い、物理学の各分野で自立して研究を行う能力及びその基礎となる豊かな学識又これに加えて高度の専門性を要する職業を担うための能力を持つ優れた人材を養成する。

#### 化学専攻

新しい概念と学際領域の創出を目的として新規物質の創製並びに新しい化学現象及び化学原理の探求に強い意欲を持ち、かつ、化学の各専門分野で自立して研究を行う能力及びその基礎となる豊かな学識を持ち、高度の専門性を要する職業を担うための能力を持つ人材を育成する。

### 生物学専攻

すべての生物に共通する生命の仕組み及び生物界の多様性の成り立ちの解明を目指した教育研究を行うとともに、生物学の各専門分野で自立して研究を行う能力及びその基礎となる豊かな学識又はこれに加えて高度の専門性を要する職業を担うための能力を持つ優れた人材を養成する。

### 惑星学専攻

多様な惑星現象に対する広範囲な視野、多様な手法を用いた解析能力と論理的思考力、豊かな感性とグローバルな視点を備え、惑星現象に関する高度な専門的知識に基づき、社会の発展を牽引する人材や新たな研究領域を開拓する独創的な人材を養成する。

これらの教育研究上の目的及び全学で定めた学位授与に関する方針を踏まえて、学生の修了及び学位取得の要件を、下記のとおり定めている。

○後期課程に3年以上在学し、各専攻が定める授業科目のうちから所定の単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、研究経過発表会並びに研究成果発表会での発表を経て、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、後期課程に1年（2年未満の在学期間をもって修士課程、前期課程又は専門職学位課程を修了した者）にあっては、当該在学期間を含めて3年）以上在学すれば足りるものとする。

○博士課程後期課程を修了した者には、博士の学位を授与する。

なお、各専攻における教育研究上の目的や適用される理学研究科規則は、入学年度に発行された学生便覧に掲載されている。

## 11. アドミッション・ポリシー

### ◆理学部

理学部では、数学、物理学、化学、生物学、惑星学のそれぞれの学問体系を土台にして、自然科学の基礎となる教育と研究を行い、世界をさまざまな面からとらえた数理現象、物質を構成する素粒子、原子、分子の性質や振る舞い、生命活動を担う分子の働きや生態系を支える多様性、あるいは地球や宇宙の成り立ちや動きなどを、講義、演習、実験、実習を通じて深く理解する人材を養成することを目指しています。このため、理学部では、次のような学生を求めます。

### ○理学部の求める学生像

1. 数学、理科学分野が対象とする多彩な自然現象に対し、旺盛な知識欲をもち、批判的精神と独立心に富んだ見方や考え方ができる学生
2. 人文科学、社会科学など多方面の分野に興味を示すとともに、総合的な理解力を持つ学生
3. 特定の科目に際立って優秀で、独自性の豊かな学生
4. 日本語や英語の基本的学力を備え、それによる表現力、コミュニケーション能力の向上に意欲のある学生

◆理学研究科○博士課程前期課程

理学研究科博士課程前期課程では、数学、物理学、化学、生物学、惑星学の各専門分野において幅広い知識をもつとともに、問題解決能力と学際的視点をもった創造性豊かな人材を養成することを目指しています。このため、専門分野における学士相当の基礎学力をもち、知的好奇心に富み科学の探究に情熱をもつ人、論理的な思考能力に優れた人、さらには、社会において専門知識をさまざまな形で展開する意欲をもつ人を受け入れます。

○博士課程後期課程

理学研究科博士課程後期課程では、数学、物理学、化学、生物学、惑星学の各専門分野において高度な専門性と幅広い視野をもち、卓越した創造性と独創性を合わせもつ人材を養成することを目指しています。このため、専門分野における修士相当の基礎学力や研究能力をもち、知的好奇心に富み科学の探究に情熱をもつ人、論理的な思考能力やプレゼンテーション能力に優れた人、さらには、社会において専門知識をさまざまな形で展開する意欲をもつ人を受け入れます。

12. カリキュラム・ポリシー

→理学部・理学研究科ファクトブックⅢ  
(データ・資料編)のとおり

13. 教育上の取組

◆多様な学習の機会 (英語授業, ボランティア活動, 海外留学等)

◆ボランティア活動, 海外留学の教育的効果を高めるための単位認定以外の特別な取組 (例えば TOEIC 受験など)

◆ダブルディグリープログラム受入れ・派遣学生数

◆協定に基づく海外留学者数

◆4月以外の入学者状況

◆ナンバリング導入状況

→理学部・理学研究科ファクトブックⅢ  
(データ・資料編)のとおり

## 14. 学生に関すること

◆入学者数等 (H27.5.1 現在) (入学状況等調査のデータを引用)

◆留学生の出身地域内訳

◆日本人学生の海外派遣人数内訳

→理学部・理学研究科ファクトブックⅢ(データ・資料編)のとおり

## 15. 就職

◆**就職率**（各年5月1日現在、5年分、就職率＝就職者/就職希望者）

	平成 H22(2010) 年度	平成 23(2011) 年度	平成 24(2012) 年度	平成 25(2013) 年度	平成 26(2014) 年度
学部	78.8%	88.1%	82.4%	86.1%	76.7%
博士前期課程	90.1%	93.2%	91.5%	89.1%	91.8%
博士後期課程	--	95.7%	68.4%	100.0%	66.7%

## 16. 教育研究上の活動状況等

16-1 科研費等

◆**科学研究費補助金**（補助金分・基金分）

◆**共同研究，受託研究，その他外部資金**

16-2 研究業績の状況

◆**主な業績数**

→理学部・理学研究科ファクトブックⅢ  
(データ・資料編)のとおり

16-3 その他の教育研究上の活動状況等

◆**海外において通算して1年以上教育研究に従事した日本人教員の在籍状況**

理学研究科 46人

◆**国外で学位を取得した日本人教員の在籍状況**

Master/修士 0人          PhD./博士 2人

◆**ベンチャーの実績**

2012年

(同) Integral Geometry Instrument 合同会社

理学研究科 木村 建次郎 准教授

計測機器、信号・画像処理ソフトウェアの製造、販売、制御系ソフトウェアの受託研究開発